

短 信

会長 短信

政 志 郎

会員の皆様にはお変わり御座いませんか？

明石さん、渡辺さん、速見さんの3人が物故者となりました。ご冥福を祈っております。合掌。

同志社スポーツユニオンは関東支部に引き続き、東海支部を開設して、地域毎の先輩各氏の交流を通じて、地域に於ける各部の定期戦、交流試合に応援・観戦により多くの先輩を動員して、①学生の奮闘に対応する姿勢を明確にし、②強くて勝てる同志社スポーツ、③人を造り育てる同志社スポーツ④楽しく友情を深める同志社スポーツ、を活動方針として、多くの同志社人に感動と勇気を与える『同志社スポーツ』を目指しています。

航空部東海支部代表者に坂田 博先輩(S58年卒)、副代表に水谷修平先輩(H12年卒)を決めさせて頂きました。ご苦勞様ですが東海支部として存分にご健闘されますことを願っています。東海支部在住の先輩各氏にご協力・ご支援を併せてお願い致します。

翔友会活動は、創部50周年記念事業が、故佐々木 哲先輩や当時の幹事の努力により発足運営して参りましたが、時代の変遷とともに対応していましたが、組織運営に疲労破壊を生じています。私自身の運営能力の無さが拍車をかけていますことも事実であります。平成年次の卒業生が30%を越えている実態です。

平成年次卒業で熱心に活動支援して頂けるOBの数を増やし、時代に対応出来るスピード、若いOBの発想・行動・夢を取り入れた組織運営に切り替えて、若さのある翔友会に変革せねばなりません。幹事会で改革について議論し始めました。

現役諸君の頑張りで一時的衰退していました部活

が、各競技会に出場、且つ成績も上昇してきましたが、支援する資金が底をつき、今年は資金カンパをお願いせねばならない状態となりました。

現役支援は先輩OBの仕事です。翔友会の運営資金は、OB各位の貴重な年会費で賄われます。その徴収力は40%弱です。最低限度の運営費は150万円/年が必要です。支出は会誌(含む発送費)57万円、現役支援費40~50万円、事務・通信費17万円、学連カレンダー(毎年年会費納入者に送付)購入費等の雑費15万円となります。詳しくは会計報告を参照願います。

要は、会費の徴収力を50~60%なる施策を早急に纏めてOB各位のご協力をお願いしなければなりません。

翔友会組織の改正を幹事会で検討しています。概要は巻末に掲載しておきますので、良いアイデアがありましたら、事務局か年次委員へご意見をお願い致します。

昨年9月、若手OBの前田、水谷両君の発案によるOB飛行会が木曽川で開催されました。多くのOBが参加され、大変楽しい一時を過ごすことが出来ました。本年も続けてくれるようです。平成年次の若いOBがより多く参加されるよう期待しています。

翔友会の赤裸々なことを会長短信に出す惨めさを噛み締めています。

新機体の命名式・進空式も間近です。75周年も来年に迫りました。OB、OG全員参加で航空部の発展を祝いましょう。

部長短信

山口 博 志

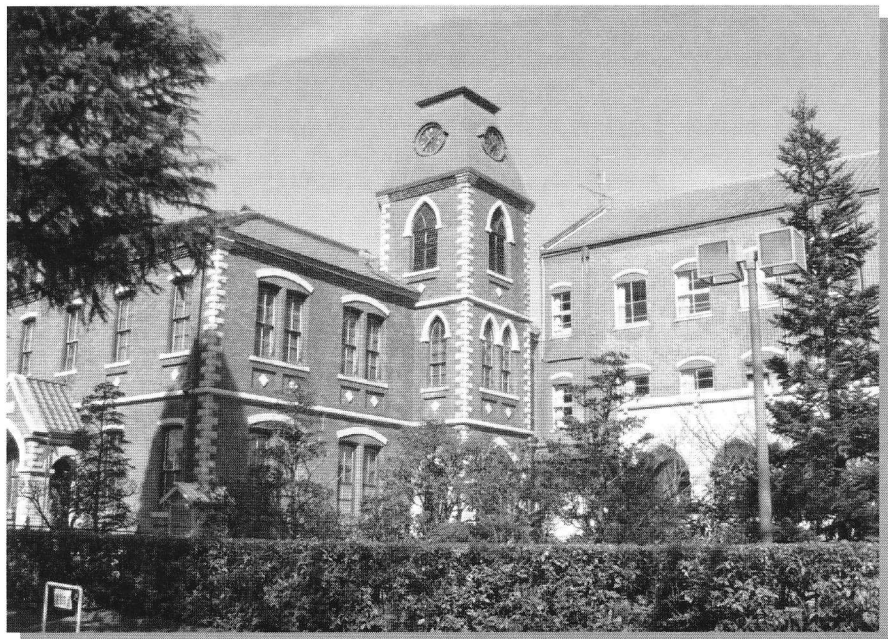
工学、技術、自然科学を研究し、これらに関わる文献を読み、論文を、本を書く。このような生活をしていると、いや、むしろこれに係わらない雑事に追われていると、しきりに人間の本質に関わる書物が読みたくなるものである。そう言う分けて、今、論語を読んでいる、と言っても、論語は一般の書物のように、初めから読み進めるものではなく、好きな所を読む、また、自分が求めるところを探して読むものである。このような、読み方をしていると、何故か、いつも同じ章で同じ文に行き当たり、結局、同じ文章を何べんも読むことになる。このような分けて、私の良く行き当たる章を紹介すると、述而第七、また、行を読み下してみると、

子曰く、道に志し、徳に拠り、仁に拠り、芸に遊ぶ。

ここで、孔子の時代、と言っても、論語は孔子の没後に、弟子たちにより纏められたものであるが、芸と言うのは、礼、楽、射、御、書、数、であるらしい。これらは、今で言う、作法、芸術、スポーツ、学問と言うところか。大変、深遠で含蓄のある行である。しかし、私にとっては、いずれにしても、到底、遊ぶところには到達できそうにもない。ただ、遊んでみることは、出来そうでもある。

昨年には、皆様のご尽力により、新しい機体が導入され、また、部員も増え、益々がんばっているようで、大変、喜ばしい。新しい期待を胸に、飛躍を願うのみである。

新年度に際し、翔友会皆様のご健勝、ご多幸をお祈りするとともに、今年も航空部に対し、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



監督短信

森 川 泰

平成21年度の全国大会が終わり、一息ついたところでこの原稿を書いています。今回の全国大会は天候が悪く、やきもきさせられましたが、最終日に好条件となり、その日に同志社も Ka6E で周回して団体 6 位入賞、個人 7 位という成績で無事終わることが出来ました。去年に続く連続入賞と言うことで大変嬉しく思っています。学生にはよく頑張った、おめでとうと言いたいと思います。しかし一発勝負で入賞出来たと言う感じでもあり、また同志社としては更に上を目指して行かなければならいことを考えると、ここで立ち止まる訳にはいきません。また、今日から学生も教官も気持ちを新たに来年の全国大会に臨まなければなりません。

今年も Ka6E で全国大会に出場し入賞しました。そしていよいよ ASW28-18 の出番が近づいてきました。この翔友が発行される頃には、命名式などを無事終えて学生達が乗り始めていることでしょう。これからはこの ASW28 が同志社航空部のフラッグシップとなり、学生はこの ASW28 を乗りこなして全国大会で活躍してくれるものと期待しています。思い返せば、同志社航空部が活気づいて来た頃と時期を合わせる様に、75周年記念事業として新機体導入の話が持ち上がってきました。指導陣としては是非、最新鋭の高性能単座機を導入したいとの願いがあり、最新世代のスタンダード機である 3 機種から選ぶことになりましたが、どれも甲乙付け難く、みんなで迷いました。また、為替レートの関係で中古機を購入することも検討しました。1 年近く悩みましたが、機体の操縦性や滑空性能はもちろんのこと、パイロットの安全性やフライトに集中出来る様なコックピットの快適性なども考慮して ASW28-18 に決めました。装備についてはパイロットが競技飛行をす

るのに必要な計器類をけちること無く装備し、機体については長く良好な状態で使える様にオプションを付けました。そして為替レートでユーロが安くなって来ていた平成20年秋についに発注することを決断しました。発注した時点ではまだ資金的にも不安はあり、私としてはかなり勇気のいる決断でしたが、このチャンスを逃しては導入は難しいと決断しました。その後、学生や OB の皆さんのご協力があり資金的に見通しも立ち、こうして新機体を導入出来たことを監督として大変感謝しております。本当にありがとうございました。この機体を大切に活用して行き、この機体を導入して良かったと言える様にしたいと思います。

一方、Ka6E はこの ASW28 の導入と入れ替わりで引退させることも考えていましたが、Ka6E を復活させて実際に飛んだ学生達はその良さを認識するとともに、Ka6E の存続を望む OB の方達がいらっしゃいました。色々と検討した結果、OB 会から金銭的支援を頂きまして今後も Ka6E を飛ばし続けることが出来ることになりました。今後は、学生がこれまでと同様に Ka6E を整備し、飛ばして行くことになります。同志社の大切な財産として末永く飛ばして行きたいと思います。

平成22年度も色々なことがあることでしょう。良いこともあれば、悪いこともあるでしょう。また、我々を取り巻く環境は常に変化しており、これまでうまく行っていたことが、これからは通用しないということも出てくるでしょう。しかし、それらを学生全員が一致団結して、或いは OB も含む同志社航空部が一致団結して乗り越えて行かなければなりません。空を愛する者みんなで空高くに有る目標に向かって舞い上がって行きましょう。そして同志社が誇る 2 機が全国大会でワンツーフィニッシュを決める日を夢みて。